

日南市立酒谷中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

国語：基礎・応用 文法の定着率が低い。「読むこと」に関する問題の正答率が低い。
 社会：応用 調べる活動、資料活用（社会的な見方・考え方）を苦手とする。
 数学：基礎 計算ミスに気づけていない。見直しと演習の習慣化、個別指導が必要。
 理科：基礎・応用 漠然とした理解のため正確な解答を書くことができない。1分野が苦手。
 英語：基礎 内容把握とリスニングが弱い。文法理解が不十分で、英作文が苦手。
 ※ 調べる、考える、見直すといった学び方の基礎が身に付いていないため、学習の定着が不十分である。
 ※ 到達度分布状況において、20%しか到達していない生徒がどの教科でも見られることから、手立てを講じる必要がある。

(2) 意識調査結果からの課題

教科の理解度に関して、分からないという否定的な回答をした生徒が3割近く見られる教科もある。学習意欲の面からもこの数値の改善を目指したい。
 授業の内容や文章中の語句など、よく分からない事柄があったときに、それをよく考えたり、調べたりすることをしようとしめない傾向がある。
 生きる力の社会的実践力の「テレビのニュースや新聞などで最近の社会のできごとをよく知っている」の問いに関して、否定的な回答が多い。社会の一員であるという意識が低い。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

生徒の学力が向上するためには、学校が楽しいものでなければならない。学校生活の大半が授業であり、楽しい学校とは授業が楽しく、理解できるものでなければならない。そのためには、職員の指導力向上を図ることが大切である。一人年1回の研究授業を目標にし、職員の指導力向上を図る。また、小規模校であり、一人一人の生徒に十分に目が行き届く環境にある。授業時間だけでなく、昼休みや放課後などを利用したきめ細かな指導やニーズにあった指導の実践を心がけ、職員、生徒がお互いにやるべき事をきちんと実践できる学校経営を目指す。

(2) 教育課程内の取組

① 授業中における指導の工夫・改善

小单元ごとに「ステップアップシート」を活用してきた。生徒の理解度や集中度を自分自身で客観的に評価できるように工夫した。生徒自身に授業への取組・反省をさせ、教師が生徒の理解度を確認し、指導のあり方を工夫する機会としてきた。

また、「調べる、考える、見直す」を苦手とするため、授業に「調べる」・「考える」場面をできるだけ取り入れるようにした。学期末の反省で「各教科の現状と対策」を話し合い、改善点を検討してきた。

ステップアップシート

【 】年【 】番 氏名【 】

(1) 空気中の水蒸気は、()ものにふれると水滴になる。

(2) くみ置きの水も温度を下げていくと、コップの表面に小さな
()ができる。

(3) (2)の露ができる温度を()という。

授業の反省 (よくできた ◎ できた ○ あまりできなかった △)

(1) 授業では、集中して話を聞きましたか。()

(2) 授業に積極的に参加できましたか。()

(3) 授業内容の重要語句は理解できましたか。()

(4) 授業内容の中で観察、実験の方法について理解できましたか。()

【ステップアップシート】

② 個別指導における支援のあり方

生徒の中には、勉強をどのように進めればよいかわからない者もいる。そこで、定期テス

ト前には特設のテスト対策の時間「ステップアップタイム」を実施し、重要語句をまとめたカード、「ステップアップカード」を作成させることにした。この時間には、生徒が各教科に分かれ、職員の指導のもと、基礎・基本の定着のための学習方法を体験させ、学習意欲を高めるようにした。「ステップアップカード」は、学級の朝の会・帰りの会で、英語のフラッシュカードのように使い、学習している。定期テストでは、このカードの内容を問題に取り入れ、解答用紙に[S]マークをつけ、学習した内容は必ず解けるように指導することで、生徒が成就感・達成感を味わえるようにした。最初のうちは、「ステップアップカード」の内容すらできなかった生徒も、徐々に「ステップアップタイム」の意味を理解し、定期テストでの正答率も上昇してきた。



【「ステップアップカード」の使い方】

(3) 教育課程外の取組

- ① 毎月第4金曜日の「くすのき集会」（「学力向上集会」）を実施している。この集会は、企画・運営を生徒会学習委員会が行う。内容は「学力向上委員会の報告」、「3年生の進路選択までの経緯や入試を体験しての感想」、「教師の体験談」などバラエティーに富んだものになっており、生徒の主体的な活動として定着している。
- ② 「漢字検定」や「英語検定」に挑戦させている。平成17年度の受験率は漢検が57%、英検が73%であった。生徒の積極的な取組が見られた。



【「くすのき集会」の様子】

(4) 保護者・家庭、地域との連携

学力向上のためには、学校の取組以外に家庭との連携が重要である。そこで、「学力向上委員会」を設立した。この会は、生徒・教師・保護者が一堂に会し、学力向上に関するお互いの考えや思いを伝える機会とし、それぞれの機能を生かした取組を話し合う場とした。毎年夏に「学力向上座談会」も実施している。この会では、「NRT」の結果分析を生徒・保護者に説明し、生徒の学力の現状を把握してもらい、その後、分科会に別れ、各教科の学習方法やその取組の現状を車座になって話し合う会である。



【「学力向上座談会」の分科会】

分科会では国語、英語、数学の3分科会に分かれて、活発な意見交換を行った。また、「学校評議員会」を年間2回開催し、学校運営状況を説明するとともに、生徒・保護者・職員による「学校評価」のアンケート調査結果を公開し、意見をいただく機会としている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

成果として、

- ステップアップシート、ステップアップカードの活用を通して、基礎・基本の定着が図られ、定期テストでの[S]マーク問題は正答率がほぼ80%を超えるようになった。
 - 漢字検定や英語検定に挑戦することで、目標をもって学習する態度が身に付いてきた。
- 課題として、
- 授業中に「調べる」・「考える」場面を取り入れたが、十分な成果を出せなかった。
 - 三位一体（生徒・学校・保護者）となって、家庭学習を充実させるための手立てを工夫する必要がある。